

## ノ ー ト

小林 弘： 国際植物命名規約 (1972) に手引きされている文献の引用法について Hiromu KOBAYASI: An introduction to the “Guide to the citation of botanical literature.” in ICBN 1972.

周知のように文献の引用は慣例に従って行なわれている。そのどれが適当か、とまどう場が多い。別にこうでなければならないという規則もないが、最も適当と思われる手引きが国際植物命名規約 (1972. Utrecht) に出ているので、下に若干の解説を交えて紹介することにした。この方法を使ってみると、従来の方法に比べ、コンマの使い方の少ないのにまず気付かれると思うが、なれると簡潔であり、かつ分かりやすい。なお、文中特に活字を小さくして入れた注は訳者のものである。

## 植物学文献の引用についての手引

植物学の印刷物における文献の引用は、次の項目で、しかも、次に示す順序で構成されていなければならない。

1. 著者名 分類群名に付加する引用 (注—科名・属名・種名などの原典を示す引用などをさす。) では、著者名 (注—または命名者名) は勸告 46A で勸告されている方法で短縮が行われていなければならない。その他の (文献目録などでの) 引用では、著者名は短縮せずに書く、すなわち、最初に last name がきて、これに first name がつづく。フルネームの使用は混同をさけるのに役立つ。

共著の場合は、最後の著者名の前に *et* または “&” の記号を入れる。(勸告 46B を見よ)。(注—勸告 46A. 46B は国際命名規約中の項目名である)

分類群名のあとでは、短縮されない著者名はコンマで区切り、短縮された著者名は、短縮されていることを示すためのピリオド以外の句読点を必要としない。

2. 標題 (タイトル) 分類群名のあとでは、書物の標題 (注—雑誌名も含む) は通常短縮を行ない、雑誌中の論文の標題は通常これを省く。その他の場合には (例えば文献目録中などでは)、標題は書物の表紙または論文の冠頭に書かれている通りに引用されなければならない。

分類群名のあとの引用では、標題名の末尾は短縮されていることを示すピリオド以外の句読点を必要としない。(注—語をつめる場合を短縮、取り除く場合を省くとし、どちらともとれる省略の語の使用をさけてある)

## ◎著者名と標題についての分類学的引用の例

P. Br. Hist. Jam.

Hook. f. Fl. Brit. Ind.

G. F. Hoffm. Gen. Umbell.

G. Don, Gen. Hist.

H. B. K. Nov. Gen. Sp.	L. Sp. Pl.
Michx. Fl. Bor.-Am.	DC. Prodr.
J. et G. Fl. N. Am.	

以上のうち、あとの5例では、その著者名は勸告 46A に示された方法で厳密な短縮が行なわれていない。これらは慣習に従って短縮が行なわれたものである。(注—Linnaeus を L., de Candolle を DC., Humboldt, Bonplaud et Kunth を H. B. K. のように短縮するのは正規の方法ではなく、定着した慣習の例)

◎短縮せずに書かれる著者名の例

Mueller, Ferdinand Jacob Heinrich von.  
 Müller, Johann Friedrich Theodor (“Fritz Müller”).  
 Mueller, Ferdinand Ferdinandowitsch.  
 Müller, Franz August.  
 Müller, Franz.

(注—本誌では長くなりすぎるので last name 以外は頭文字だけにすることを指定している)

3. 雑誌名 主要な語のみ、それぞれ第1音節までに短縮する。しかし、混同をまねく心配があるときは、必要な追加語または音節を付加して短縮が行なわれなければならない。(単一の語および個人名からなる雑誌名は慣例として短縮が行なわれぬ。しかし、慣例的に多くの例外が認められている)。すなわち、冠詞、前置詞およびその他の不変化詞 (der, the, of, de, et, など) は、これを省くと混同を起す場合以外は省き、語の順序は、標題紙にある順序と同じにし、不必要な語、副題、およびそれに類似のもの省く。

同一名または非常によく似た名称をもつ雑誌間の混同をさけるためには、出版地または他の区別のための資料を角括弧でくくって付加する。

雑誌名と次の名称の間には短縮されていることを示すピリオド以外の句読点を区別のため使用してはならない。(注—短縮が行なわれていないときは句読点不要)

◎雑誌短縮の例

Ann. Sci. Nat. とする。Ann. des Sci. Nat. は不可。  
 Am. Journ. Bot. とする。Amer. Jour. Bot. は不可。  
 Bot. Jahrb. (Botanische Jahrbücher für Systematik, Pflanzengeschichte und Pflanzengeographie) とする。Engl. Bot. Jahrb. は不可。(Engler は編集者であって論文の著者ではない)。

Mem. Soc. Cub. Hist. Nat. (Memorias de la Sociedad Cubana de Historia Natural “Felipe Poey”).

Acta Soc. Faun. Fl. Fenn. (Acta Societatis pro Fauna et Flora Fennica).

Bull. Jard. Bot. État [Bruxelles] (Bulletin du Jardin Botanique de l'État).

Flora [Quito] (著名な Jena で出版されている“Flora”と区別するため)。

Hedwigia とする。Hedwig. は不可。

Gartenflora とする。Gartenfl. は不可。

Missouri Bot. Gard. Bull. とする。Bull. Mo. Bot. Gard. は不可。(標題紙を見よ)。

4. 版とシリーズ 書物が版を重ねて出版されたときは、2 版目からは“ed. 2”, “ed. 3”のように示す。また、

雑誌がシリーズを改めて出版され、かつ巻数も第 1 巻から始まるときは、2 シリーズ目からは、ローマ数字の大文字か、または“ser. 2”, “ser. 3”のように示す。

#### ◎版とシリーズの表示の例

G. F. Hoffm. Gen. Umbell. ed. 2.

Compt. Rend. Acad. URSS. II. (Comptes Rendus de l'Academie des Sciences de l'URSS. Nouvelle Serie).

Ann. Sci. Nat. IV.

Mem. Am. Acad. II. (または ser. 2.) (Memoirs of the American Academy of Arts and Sciences. New Series) とする。Mem. Am. Acad. N.S. は不可。

5. 巻 巻数はアラビア数字で示す。なおよりはっきりさせるため、ゴシック体にすべきである。もしも巻数が無いときは、標題紙に印刷されている年号を使うことができる。

巻数は、頁数や図版番号とはコロン(:)で区切られていなければならない。

6. 部・編・号 もしも、一つの巻が通し番号でなく、それぞれ別個に頁数が打たれている部・編・号でできているときは、それらの番号を巻数の直後(でコロンの前)に丸括弧で囲むか、または肩数字で入れる。通し番号が打たれている巻に対しては、このような表示は無用のもので、返って誤植の原因となるので省く。

7. 頁 頁数は当初に別の方法で書かれていない限りアラビア数字で示す。もしも、複数の頁を表示したいときは、数字をコンマで区切り、また連続した頁を引用するときは、最初と最後の頁数をダッシュでつなぐ。

8. 図 もしも、図や図版を示す必要があるときは、f. および pl. または t. (ラテン語の tabula の略)のあとにアラビア数字をつけて示し、よりはっきりさせるためイタリック体にする。(注—f. や pl. だけでなく図番号と図版番号もイタリック体にする)

9. 日付 出版の日時は引用文の末尾におくか、または、文献目録中では、著者と日時を関連づけたいときは、日付を著者名と標題の間に入れてよい。もしも、より正確に日時を示したいときは、日・月・年の順に入れる。これらの日付は(どちらに入れるときも)、丸括弧でくくってよい。

注：上述の引用項目相互の間はピリオドで区切る。(注—項目の末尾の語には、それ

が短縮されていても、いなくてもピリオドをつける。しかし、本文項目2と3の場合は不要であるため要注意)

◎分類群名に付加する引用の例

*Anacampseros* Sims, Bot. Mag. 33: pl. 1367. 1811.

*Tittmannia* Brongn. Ann. Sci. Nat. 8: 385. 1826.

*Monochaetium* Naud. Ann. Sci. Nat. III. 4: 48. pl. 2. 1845.

*Cudrania* Tréc. Ann. Sci. Nat. ser. 3. 8: 122. f. 76-85. 1847.

*Symphyoglossum* Turcz. Bull. Soc. Nat. Mosc. 21<sup>1</sup>: 255. 1848.

*Hedysarum gremiale* Rollins, Rhodra 42: 230 (1940).

*Hydrocotyle nixioides* Math. & Const. Bull. Torrey Bot. Club 78: 303. 24 Jul. 1951.

*Ferula toluensis* H.B.K. Nov. Gen. Sp. 5: 12. 1821.

*Critamus dauricus* G.F. Hoffm. Gen. Umbell. ed. 2. 184. 1816.

*Geranium tracyi* Sandw. Kew Bull. 1941: 219. 9 Mar. 1942. (注一標題紙の年号を巻数に代用した例。論文は1942年3月に出版されたが、この巻は前年の1941年から始まっている。)

*Sanicula tuberosa* Torr. Pacif. Railr. Rep. 4 (1): 91. 1857.

◎文献目録への引用の例

Norton, John Bitting Smith. Notes on some plants, chiefly from the southern United States. Missouri Bot. Gard. Rep. 9: 151-157. pl. 46-50. 1898.

Reichenbach, Heinrich Gottlieb Ludwig. Handbuch des natürlichen Pflanzen-systems. i-x, 1-346. 1837.

Don, George. A general history of the dichlamydous plants. 1: 1-818 (1831). 2: 1-875 (1832). 3: 1-867 (1834). 4: 1-908 (1838).

Schmidt, Friedrich. Reisen im Amur-Lande und auf der Insel Sachalin. Botanischer Theil. Mem. Acad. St.-Petersb. VII. 12<sup>2</sup>: 1-277. pl. 1-8. June 1868.

Glover, George Henry & Robbins, Wilfred William. 1951. Colorado plants injurious to livestock. Bull. Colorado Exp. Sta. 211: 3-74. f. 1-92.

(東京学芸大学生物学教室)